



お知らせ

- #建物の保存を考える in Tokyo 東京駅と日本銀行本店 11月17日(金)
- #畑儀文の合唱教室 11月20日(月)
- #ヴォーリズ六甲山荘 大掃除&暖炉とワインを楽しむ会 11月23日(木・祝)
- #下期セミナー 聖心女子学院とカトリック宝塚教会 12月2日(土)
- #畑儀文の合唱教室 12月18日(月)
- #新年会(関西) 2018年1月13日(土)
- #新年会(関東) 1月27日(土)
- #サロンコンサート at 古曳邸 2月10日(土)
- #梅の茶会 3月10日(土) 草志舎

ヴォーリズ六甲山荘大掃除&暖炉とワインを楽しむ会

六甲山荘の一般公開は今年は11月19日(日)が最終日です。そのあと23日(木・祝)に大掃除をして、ご苦労様会をします。暖炉に火をいれ、ワインをあけて、みんなで楽しみましょう!今回は三井住友信託銀行から若いボランティアが参加してくれます。山荘の庭には落ち葉のじゅうたんができています。これを集めて落葉焚きをするのですが、落ち葉の燃えるいい匂いがたまたま、焼き芋もおいしく焼きあがります!ぜひご参加ください。

日時 11月23日(水・祝) 午前10時から

(阪急バスご利用の方は阪急六甲9時15分発が便利です)

持ち物 汚れてもいい服装、軍手など

昼食の準備の都合がありますので、ご参加の方は21日までにご連絡ください。



ご報告 セミナー 9月9日(土) 草志舎

ヴォーリズ建築事務所で長年働いてこられた石田さんが、「ヴォーリズさんの設計室」という題で、ヴォーリズの設計に対する想いを細かく語っていただきました。図面、写真を多用してのお話しは大変印象深い内容でした。



ご報告 世界ナショナル・トラスト機構(INTO)世界大会

9月11日(月)~15日(金) インドネシア・バリ島

アメニティ2000協会が加盟しているINTOの2年に一度の世界大会がバリ島で開かれました。世界中のナショナル・トラスト活動をしている団体から200名をこす参加者があつまり、バリ島のギャニャールという地域あげての歓迎を受けた盛大な会でした。テーマにそった分科会はもちろんバリの文化の紹介も印象深かったです。

<参加記> 「INTO 世界大会の印象」

ハナ・イスタム

雨がちなイギリスで仕事に明け暮れた長い夏の終わり、日本に戻る旅の途中で美しいバリ島に寄ることができた。世界ナショナル・トラスト機構(INTO)の2年に1度の世界大会に出席するためである。前回、2015年のケンブリッジでの大会では私は出席だけでなく講演の機会も与えられた。今年はアメニティ2000協会からは私と清水順子さんが参加し、世界中の文化遺産組織から200名以上が参加していた。今年はプレゼンテーションをするというプレッシャーもなく、前回の顔見知りとの再会や、同じ思想の人たちとの新しい出会いがあり、ディスカッションや新しいアイデアによる刺激をたのしむことができた。

今回の大会は、「私たちの文化遺産こそ環境持続の鍵」というテーマでひらかれた。拠点となるウブドという町はハリウッド映画「食べて、祈って、恋をして」(Eat, Pray, Love)にも登場し、近頃は「精神の覚醒」を求める人たちに人気のスポットになっている。観光が生活の中心となっているような場所で何が期待できるのか、私はやや不安な気持ちだった。

町の人たちと触れ合っただけで、すぐに気がついたのは、ウブドの人たちにとって観光とは彼らの生活や伝統に踏み込んでくる邪魔者ではなくて、彼らの温かいもてなしの心や伝統文化への高い誇りを示す機会ととらえていることだった。INTO 会議ではギャニャールの摂政（地域の行政の長）からホストとしての歓迎を受けた。彼が個人としてスポンサーとなり差配してくれたおかげで、私たちは「王族の接待」を受け、いくつもの自然や文化遺産を訪問し、そこで講演やワークショップを行うことができた。

残念なことに私はイギリスでの所用のため初日に参加できなかった。土地の市場に行ったり、屋台の食べ物を食べたり、浜辺で子亀を放流したりしたそうだが！でも遅れて参加しても充分楽しかった。サファリパークではライオンやトラをすぐ間近から見る事ができた（もちろんガラス越しで！）。色彩あふれる「バリ・オペラ」。植物園では地域の自然の再生と大会で結実しつつある新しいパートナーシップを象徴するべく植樹をした。王宮では伝統の食事をふるまわれ、バリのダンスに挑戦することもできた。最後の日には聖なるバリ・ヒンズー寺院を訪れ、大会の無事の終了を祝い、重要な教えについて学び、有名なバリのケチャクダンスを鑑賞した。



閉会前の記念撮影（前列はバリのダンサー）

こうした訪問場所ではプレゼンテーションやワークショップが開かれ、世界各地（アフリカ、アジア、ヨーロッパ、アメリカ諸国、オーストラリア、太平洋地域）から参加した組織の文化遺産を守るプロジェクトの成功例について学ぶことができた。このようにさまざまな文化的背景をもつ人々が一堂に会して、共通の主義、目標をともにするのは大変感銘深い。世界中の組織どうしのつながりの強化に貢献したことで、この大会は成功だったと言えるだろう。

大会で取り上げられた課題のいくつかはアムニティ 2000 協会の活動にも関連がある。伝統的知識や技術の伝承に文化遺産をどのように利用すればいいか。歴史的遺産の保全と現代社会のニーズをどう折り合いをつけるか。社会的・経済的・文化的に異なる背景の人々や若い世代に訴えかけ、魅きつけるにはどうすればいいか。アジア太平洋地域の代表たちはこの問題について論議し、「INTO ユース」という名称で国際的なネットワークをつくってはどうかと話し合った。ナショナル・トラスト活動を通じて若い世代が国際交流や職業的にも個人的にも成長をとげられるよう支援する組織である。もちろんこのような活動をすすめるには、若い世代の清新なアイデアや見通しが必要であり、またもっと経験をつんだメンバーの支援も求められる。

INTO の会員すべての賛同をえて事務局が作成した「ギャニャール宣言」にアムニティ 2000 協会も賛同した。宣言のなかで文化遺産保存の活動は、それぞれの遺産の地で環境を維持する活動をくみこむことを重要視している。水やエネルギーの保全、非有機物のリサイクル、有機物の廃棄物のたい肥化、プラスチックの使用を削減、フェアトレードの食品の消費などである。

このようにこの大会から私が得たものは文化遺産の保存の仕事について職業的に刺激を受けただけでなく、毎日の生活に取り入れられる小さなことが、生活の質を向上させ、社会的環境の変化に貢献できると気が付いたことである。私がバリで体験から学んだのは、文化遺産の活動は単に「過去」を守るのではなく、文化的に豊かで持続する社会を確かなものにするのだという事実だった。皆さんもアムニティ 2000 協会の活動に参加し、同じような価値観を持つ人々と交流し、こうした目標を達成するにはどうしたらいいのか一緒に考えましょう。

ご報告 園遊会 at 六甲山荘 9月23日（土・祝）

久しぶりの園遊会です。吉田久子さんの腹話術による軽妙な司会、弦楽デュオのすばらしい演奏、おいしいケーキと飲物、希望者には石窯ピザとビゴのサンドイッチのランチ、会員の作品展・・・と楽しい内容の一日でした。一般の参加者が多く、屋根の葺き替えをひかえたヴォーリズ六甲山荘を広く知ってほしいという当初の目的がかなったと思います。コンサート出演：弦楽デュオ響楽（ヴァイオリン村瀬響とチェロ楽恒）



吉田久子さんの腹話術による司会

<開催記> 「久しぶりの園遊会」 清水 順子

諸事情で 2012 年から途絶えていた園遊会を復活させることにしたのは、屋根の葺き替えのためです。葺き替え資金を集めるためにまずヴォーリズ六甲山荘をなるべく多くの人々に知ってほしい、その魅力を体感してほしいという想いで企画しました。ミニコンサートを楽しみ、お茶とケーキを賞味し、アート作品展をながめ、山荘の建物をじっくり味わうという半日コースで 1500 円ならお買い得です。希望すれば石窯ピザも食べられるのですから。

コンサートにはヴァイオリンとチェロのデュオに来ていただきました。山荘の木の空間には弦楽器がよく合うというのはすでに実証済みです。デュオのお二人も響きがよくて演奏しやすいと喜んでくださいました。司会は腹話術！ケーキはいつものとおり会員の手作りです。アート作品展には写真、陶芸、版画、染色、織りものとバラエティにとんだ作品が並びました。全部会員の作品です。



わがアメニティ 2000 協会には才能ゆたかな会員がこんなにおられるなんて、うれしいですね。そして久しぶりの石窯ピザ。前日は雨がちで予焚きができるか心配でしたが、窯もなんとか温まっておいしいピザが焼けて、ビゴのサンドイッチとのセットは今回も好評でした。

一般のお客様が 22 名も来られたのはうれしいことです。中には山荘は初めてという方もおられ、建物の魅力に感じ入っておられました。目標はまずまず達成できたということでしょう。スタッフの皆さまありがとうございました！

ご報告 親子草木染教室 10月14日(土) 六甲山荘

心配した天気もなんとかもち、子供3人と大人7人がにぎやかに取り組みました。今年はブドウの皮にくわえて枇杷の葉とタデアイという新材料も登場し、ますますバージョンアップした内容です。石窯ピザもおいしく焼けて上々の一日でした。

<参加記>「草木染教室に参加して」

山田 晴美

今年の秋の天候はスッキリしない。染色に興味のある友人や孫もさそって、六甲山荘に行くと、テラスですでに枇杷の葉と葡萄の皮からの染料が準備されていた。ビー玉や割箸を使って絞りの模様をつけるため、輪ゴムでくくっていきました。どんな色か模様か想像しながら、それぞれの鍋に入れて煮込んでもらう頃には、子供は庭を走りまわって遊んでいます。そこへ今回のもう一つの楽しみの蓼藍(3イ)を栽培から刈り取ったばかりのを持って来られました。近くにいた大人達はワイワイと葉をちぎって計ってミキサーにかけて汁を絞っている。子供は布の間に葉をはさんで棒でトントンとたたく。葉の型が出てきます。汁の中に布や毛糸を入れて、最後に私が持って来ていた木綿の帽子を入れてもらいました。「ぶどう」と「びわ」は輪ゴムをはずして。それと藍。どんな色や模様になるのでしょうか。ロープにはさんで干しました。それぞれに淡い色できれいです。石窯ピザも焼き上がりおいしくいただきました。

「感想文を」と言われて、字を調べるために久しぶりに広辞苑を開きました。蓼食う虫も好き好き=辛い蓼を食う虫もあるように人の好みはさまざまである。藍の葉や茎から染料を取る、染めた色は青より濃く紺より淡い。あいいろ。インディゴと同じ。紺屋の白袴=他人のためばかり忙しくして、自分のことをするヒマがないことを言う。次々と辞書をひき、今手許に淡い色の作品があります。近所の老人会の秋の作品展に今年はこの作品を出すことにしよう。六甲山荘で大人達がしゃべっていた。「藍の栽培から出来たらいいのにおねえ」

楽しかった。

ご報告 ほりだし市 11月3日(金・祝) 草志舎

晴天に恵まれ、お客様もたくさん来られて、にぎやかなほりだし市でした。スタッフも前日の準備と当日と大勢の参加があり、すばらしいチームワークで対応しました。今年も熊本支援ということで、熊本の物産を扱いました。売り上げは23万円をこえました。ちなみに手作り品はどんなものが出品されたのかをご紹介しますと：ブローチ、和布装幀のノート、イチジクジャム、リンゴケーキ、小豆の抹茶ケーキ、チョコレートケーキ、動物クッキー、クッキー、スイートポテト、赤飯、中華ちまき、子持ち鮎の山椒煮、サンマの鰹煮、花豆、豚角煮、カボチャのミートソースグラタン、塩こぶ・・・手作り品や惣菜、寄贈品を出品して下さった皆さま、スタッフの皆さま、ありがとうございました！

お昼ごはん：豚肩ロースの紅茶煮、わかめとレタス添え、ブロッコリのマスタード合え、花豆、柿の白和え、刻み高菜のせご飯、沢煮椀



新年会のご案内

2017年の新年会を関西と関東で次のように開きます。にぎやかにおしゃべりしながら新年の抱負をかたりあいませんか。ご参加お待ちしております。

*関西 1月13日(土) 12時～
場所：草志舎
参加費：1500円

*関東 1月27日(土) 12時半～
場所：韻松亭(上野)
参加費：3000円

関東新年会の案内は正月号と一緒に送ります。

予告

ヨーロッパ文化遺産を巡る旅

昨年につづいてヨーロッパ文化遺産を巡る旅は2018年にスイス・オーストリアをまわります。

行程：スイス(ジュネーヴ→ブベイ→ベルン→
グリンデルワルト→ルチェルン→
チューリッヒ→ザンクトガレン)→
リヒテンシュタイン→

オーストリア(インスブルグ→ザルツブルグ→ウィーン
オプション：ザルツブルグ、ウィーンで

日程：5月30～6月7日 7泊9日
旅行主催：JTB ビジネストラベルソリューションズ

詳しいご案内は正月号でお送りします。



台風のご報告

10月22日の台風は久しぶりの大型でした。幸い建物には被害はありませんでした。親寝室とリビングルームの間の通路に雨漏りがありましたが、煙突の土台からとわかり、処置をして解決しました。ただ庭一面に木々の小枝が散乱し、まるでじゅうたんを敷き詰めたようになっていました。24日に安永さんが、27日に安場さん、山田さん、村山さん、清水二人が後片付けをしてなんとか元通りになりました。



六甲山荘便り

8月、9月の六甲山荘

8月の六甲山荘はシンポジウムが台風のため1日短縮という波乱の幕開けとなりました。9月にも台風のため休館が1日ありました。一方で6組の団体が来場され、そのうち3組はランチや喫茶を食べてくださって大賑わいでした。



募金のご報告～8月9月

8月、9月に次の方々から募金をいただきました。

ありがとうございました。(敬称略)

<六甲山荘屋根葺替え資金>

《8月9月合計 321,610円 2017年度累計 856,328円》

<一般資金>

《8月9月合計 91,200円 2017年度累計 300,240円》

*文化遺産継承基金

《8月9月合計 412,810円 2017年度累計 1156,568円》

園遊会風景



ピザ生地づくり



ミニコンサート

草木染教室



台風のおきみやげ



¥